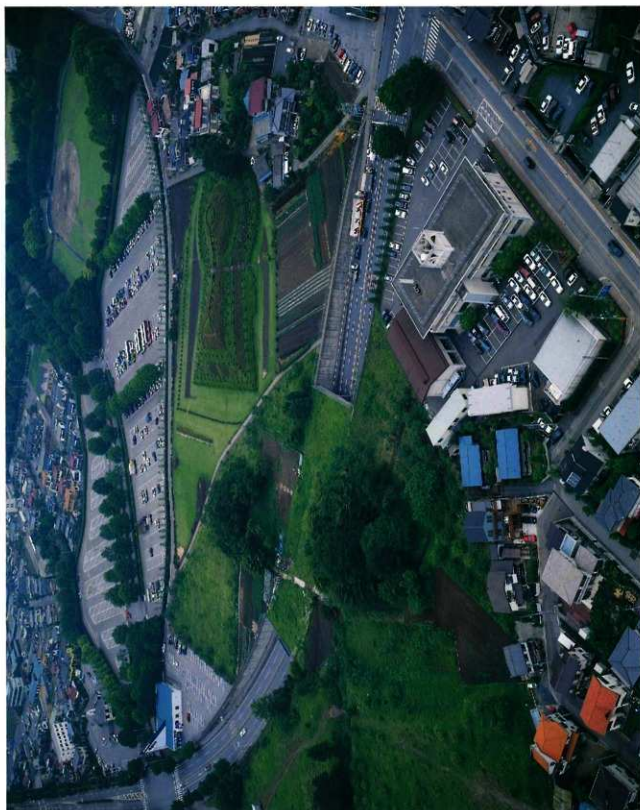


塚山古墳群

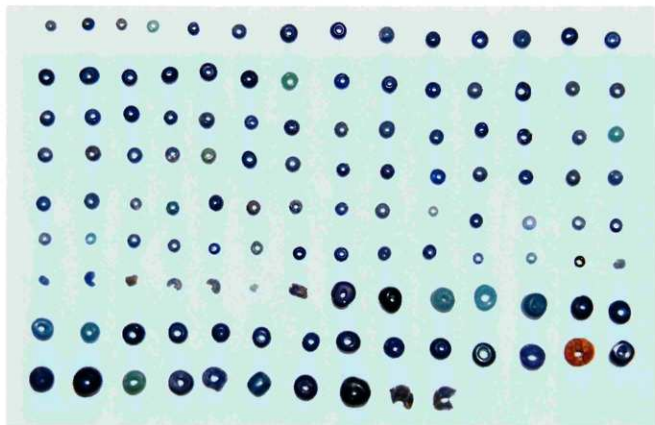
— 道路改良工事に伴う発掘調査 —

平成8年3月

宇都宮市教育委員会



調査区全景



5号墳主体部出土遺物

序

塚山古墳は古墳時代の中期に造られた全長98mの大型前方後円墳で、県指定史跡です。この他に塚山西古墳・塚山南古墳の帆立貝式前方後円墳があり、その周辺にたくさんの円墳や埴輪棺が造られています。今回はその一角が調査され、この古墳群に埋葬されている人々の実態を一部明らかにすることができました。

この時代は、「倭の五王」の時代と呼ばれ、強力な王権のもとに国家形成がなされていきます。塚山古墳の被葬者もその一翼を担っていたものと思われれます。今回調査された円墳や埴輪棺は、その被葬者を支えた人々の墓と考えられます。

本報告書が、本県の古墳時代の歴史を解明する上で、参考となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、ご尽力を賜りました、栃木県教育委員会並びに埋蔵文化財センターなどの関係諸機関の方々には厚く御礼申し上げます。

平成8年3月30日

宇都宮市教育委員会

教育長 大塚 一之

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市西川田町4丁目に所在する塚山古墳群に関する発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、市道840号の拡幅工事に伴い、宇都宮市道路建設課より宇都宮市教育委員会に依頼されたものである。
- 3 調査は、2次にわたり実施した。第1次調査が平成3年10月28日～同年11月11日、第2次調査が平成5年2月16日～同年3月31日に実施した。
- 4 調査面積は、第1次調査が200㎡、第2次調査が750㎡である。
- 5 発掘調査での測量、写真撮影等は、定岡明義、梁木誠、大塚雅之がこれにあたった。
- 6 遺構・遺物の整理、実測などは、大澤順子、君島朱美、澤村有紀子、賀来孝代、横堀聡、大野節子、大森八重子、鈴木芳子、福田貴久栄、樋口静子、鈴木道子の協力得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、大澤順子、君島朱美、澤村有紀子、賀来孝代、横堀聡がこれにあたった。
- 7 本書の執筆は今平がこれにあたった。
- 8 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会にて保管している。
- 9 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 端 静夫

＊ 大金直亮

＊ 橋本澄朗

〔事務局〕

<発掘調査時>

教育長	大塚一之
教育次長	阿部将樹
文化課長	安達光政
文化財保護係長	定岡明義
文化財保護係	手塚英男
＊	梁木 誠
＊	小松俊雄
＊	大塚雅之
＊	神野安伸
＊	今平利幸

<報告書作成時>

教育長	大塚一之
教育次長	青柳弘之
文化課長	横堀杉生
文化課長補佐	桜井敬明
文化財保護係長	手塚英男
文化財保護係	梁木 誠
＊	小松俊雄
＊	大塚雅之
＊	富川 努
＊	神野安伸
＊	今平利幸

(発掘調査補助員)

<第Ⅰ次調査時>

高村士郎、柏崎佳子、鈴木道子、川津みつえ、菱沼喜裕、野沢マチ子、高橋邦夫




<第Ⅱ次調査時>

大野節子、福田貴久栄、鈴木道子、川津みつえ、坂本みどり、阿部知己、鈴木 貴、柏崎佳子、菱沼喜裕

10 発掘調査及び報告書作成においては、次の諸機関、諸氏にご協力を頂いた。記して感謝の意を表する。
(敬称略・順不同)

栃木県教育委員会文化財課、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター、宇都宮市道路建設課、今泉 淳、石部正志、小森哲也、内山敏行

凡 例

1. 挿図の縮尺は、原則遺構が1/50とし、土器が1/3、埴輪が1/5で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ロームブロック…RB ローム粒…RR 今市バミス…IP 七本桜バミス…SP
鹿沼バミス…KP
4. 遺構においては次の略号を使用した。
溝…SD 土坑…SK 不明…SX
5. 遺構平面図において  は黒色地山、 はローム層、 は鹿沼軽石層を示す。

目 次

I はじめに	
1 調査の経過と方法	1
2 遺跡の環境	1
II 調査概要	
1 5号墳	6
2 7号墳	17
3 8号墳	24
4 5号埴輪棺	26
5 土坑	31
6 その他の遺構と遺物	31
III おわりに	38

挿 図 目 次

第1図	塚山古墳群配置図	2
第2図	古墳時代周辺遺跡分布図	3
第3図	5号墳平面図	7
第4図	5号墳断面図	8
第5図	5号墳遺物出土状況	9
第6図	5号墳主体部平・断面図	10
第7図	5号墳主体部遺物出土状況図	11
第8図	5号墳主体部出土遺物実測図(1)	12
第9図	5号墳主体部出土遺物実測図(2)	13
第10図	5号墳出土円筒埴輪実測図(1)	14
第11図	5号墳出土円筒埴輪実測図(2)	15
第12図	7号墳平面図	18
第13図	7号墳断面図	19
第14図	7号墳出土遺物実測図	19
第15図	7号墳出土円筒埴輪実測図(1)	20
第16図	7号墳出土円筒埴輪実測図(2)	21
第17図	7号墳出土円筒埴輪実測図(3)	22
第18図	7号墳出土形象埴輪実測図	22
第19図	8号墳平面図	25
第20図	8号墳断面図	26
第21図	8号墳出土遺物実測図	26
第22図	8号墳出土円筒埴輪実測図	27
第23図	5号墳埴輪棺平・断面図	28
第24図	5号墳埴輪棺実測図(1)	29
第25図	5号墳埴輪棺実測図(2)	30
第26図	トレンチ調査全体図	32
第27図	土坑平・断面図	33
第28図	土坑出土円筒埴輪実測図(1)	34
第29図	土坑出土円筒埴輪実測図(2)	35
第30図	SD01、SX01平・断面図	36
第31図	遺構外出土円筒埴輪実測図	37

表 目 次

第1表	古墳時代周辺遺跡一覧表	5
-----	-------------	---

写真図版目次

- | | |
|---------------------|--------------------|
| PL 1 ①5号墳完掘状況 | ⑤5号墳セクションD-D' |
| ②5号墳セクションA-A' (東側) | ⑥5号墳セクションE-E' |
| ③5号墳セクションB-B' | ⑦5号墳遺物出土状況 (1) |
| ④5号墳セクションC-C' | ⑧5号墳遺物出土状況 (2) |
| PL 2 ①5号墳主体部完掘状況 | ⑤7号墳完掘状況 |
| ②5号墳主体部遺物出土状況 | ⑥7号墳セクションA-A' |
| ③5号墳主体部セクション (1) | ⑦7号墳セクションC-C' |
| ④5号墳主体部セクション (2) | ⑧7号墳セクションD-D' |
| PL 3 ①7号墳埴輪出土状況 | ⑤8号墳セクションB-B' |
| ②7号埴輪形埴輪出土状況 | ⑥8号墳セクションC-C' |
| ③8号墳完掘状況 | ⑦8号墳遺物出土状況 |
| ④8号墳セクションA-A' | ⑧8号墳紡錘車出土状況 |
| PL 4 ①8号墳埴輪出土状況 | ③SK 01 遺物出土状況 |
| ②5号墳輪棺出土状況 | ⑥SK 03 完掘状況 |
| ③5号墳輪棺粘土被覆状況 | ⑦SK 03 セクション |
| ④5号墳輪棺完掘状況 | ⑤SD 01, SX 01 完掘状況 |
| PL 5 ①5号墳主体部出土遺物 | |
| PL 6 ①5号墳出土円筒埴輪 | ②7号墳出土遺物 (1) |
| PL 7 ①7号墳出土遺物 (2) | ②7号墳出土円筒埴輪 (1) |
| PL 8 ①7号墳出土円筒埴輪 (2) | ②7号墳出土形象埴輪 |
| PL 9 ①8号墳出土遺物 | ②8号墳出土円筒埴輪 |
| PL 10 ①5号墳輪棺構成埴輪 | |
| PL 11 ①土坑出土円筒埴輪 | ②遺構外出土円筒埴輪 |

I. はじめに

1. 調査の経過

平成元年から2年にかけて、石部正志教授のもとに宇都宮大学考古学研究会により県指定史跡塚山古墳の調査が行われた。その北西をとる市道840号が道路拡幅のための工事を行うこととなり、宇都宮市道路建設課と協議の結果、2工区に分割して工事が実施され、それに合せて発掘調査を実施することとなった。

第1次調査は、市道840号の東側半分200㎡が調査対象となり、平成3年10月28日～11月11日の期間で行った。第2次調査は、市道840号の西側半分750㎡が調査対象となり、平成5年2月16日～3月31日の期間で行った。

なお、宇都宮大学考古学研究会の調査成果と合せると、このエリアでは4つの円墳と1つの埴輪棺が確認されたことになる。

古墳名は、すでに宇都宮大学考古学研究会の調査で、塚山古墳（1号墳）、塚山西古墳（2号墳）、塚山南古墳（3号墳）、塚山4号墳（円墳）、塚山5号墳（円墳）、塚山6号墳（円墳）が命名されていたことから、新たに見つかった円墳はそれに続く番号である塚山7号墳、塚山8号墳とし、塚山7号墳の南側で見つかった円墳は、その位置関係から塚山5号墳と同一と考えられることから、その古墳名とした。

また、埴輪棺についても、宇都宮大学考古学研究会の調査ですでに確認されている埴輪棺を含めた遺構番号の整理がなされていたので、今回発見された埴輪棺をそれに続く番号の5号埴輪棺とした。

なお、7号墳、8号墳の大部分は、総合運動公園の駐車場によって失われている。

2. 遺跡の環境

塚山古墳群の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本遺跡は、宇都宮市の中心から南南西方へ約6kmに所在し、隣接して栃木県の総合運動公園が所在する。

本遺跡は、姿川と田川に挟まれた宝木台地上に立地する。標高は約91mを測る。

次に、本遺跡周辺の歴史的環境について概略を述べる。

縄文時代

中期の二軒屋遺跡、中期～晩期にかけての石川坪遺跡がある。石川坪遺跡では中期の加曾利E式や後期の称名寺式・猫之内式、晩期の安行式などの土器が出土している。

弥生時代

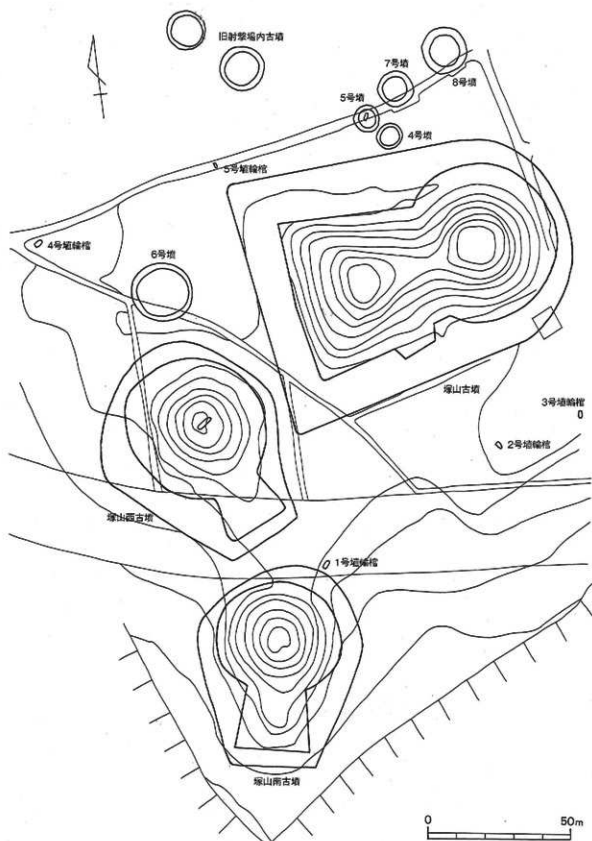
中期は、西下谷田遺跡で1軒の竪穴住居跡が確認されているほか、権現山北遺跡、愛宕塚東遺跡、上神主・茂原遺跡、殿山遺跡などで遺物が確認されており、この周辺に小規模なムラが点在している様子が窺える。

後期は、二軒屋遺跡、若松原南遺跡、西原遺跡、天狗原遺跡、本村遺跡、殿山遺跡など遺跡数が増える。

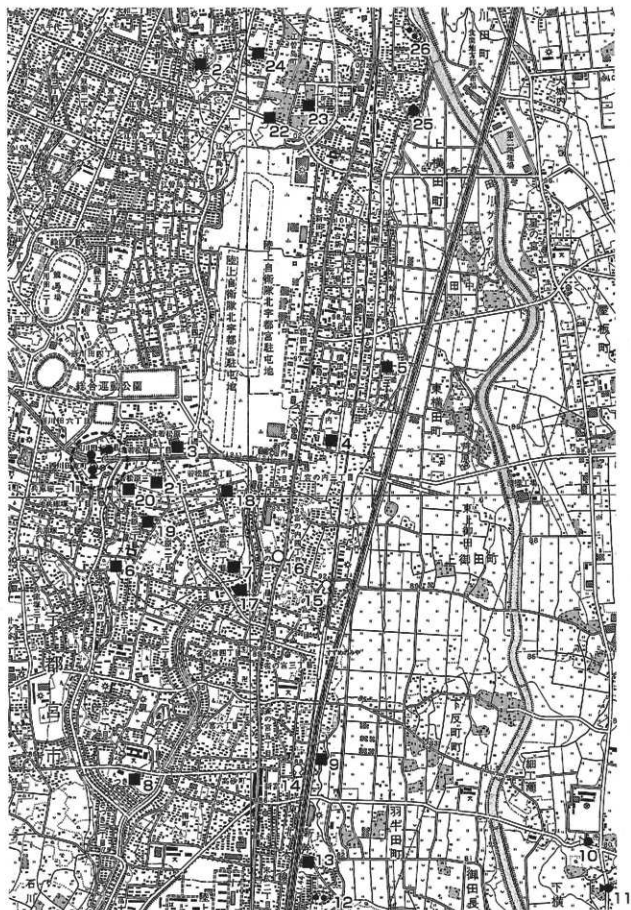
弥生時代末期には、殿山遺跡で21軒の竪穴住居跡が確認され、集落規模も拡大したことがわかる。

古墳時代

前期の集落跡は、西下谷田遺跡、大日塚古墳周辺、権現山北遺跡、牛塚東遺跡、花の木町遺跡などさらに遺跡数が増える。古墳は茂原地内に本地域の首長墓と考えられる大日塚古墳、愛宕塚古墳、権現山古墳の3基の前方後方墳が連続して築造される。



第1図 塚山古墳群配置図



第2圖 古墳時代周辺遺跡分布圖

そして、これらの前方後円墳に後続して造られるのが上神主浅間神社古墳である。直径58mの大型円墳で、方形墳から円形墳への転換期の古墳として注目される。

この後、中期になると、田川の東側に県内最大級の前方後円墳、笹塚古墳（全長約100m）が築造される。この周辺には及子塚古墳、鶴舞塚古墳、松の塚古墳などで比較的大きな前方後円墳や円墳がその後も築かれ、東谷古墳群を形成する。

これと並行する時期に塚山古墳を中心とする塚山古墳群が築かれる。塚山古墳は全長98mの前方後円墳で墳丘は三段に築かれ、後円部と前方部の一部に葺石を持つ。円筒埴輪・朝顔形埴輪・土師器・須恵器が出土している。これに後続して全長63.1mの帆立貝形前方後円墳である塚山西古墳、全長58mの帆立貝形前方後円墳である塚山南古墳が順次築造される。その周辺に円墳が並行して築かれ、今回の報告する円墳等もその一部である。

このほかにも田川西岸の宝木台地上には、本村古墳群や城南3丁目遺跡など中期後半以降に築造を開始する古墳群が増える。

中・後期の集落跡は、権現山北遺跡、殿山遺跡など前期から継続して営まれる集落のほか、東谷・中島遺跡群のように中期以降に集落が営まれ始める場所もある。

塚山古墳群と特に関係が深いと考えられる集落は、北若松原遺跡、雷電山遺跡である。

北若松原遺跡は、塚山古墳群の東方約400mのところの位置し、古墳群との間には浅い谷が入る。5世紀後半から6世紀前半の堅穴住居跡26軒と平安時代の堅穴住居跡2軒、土坑十数基が確認されている。なお、遺物の中には高坏や甕などの古式須恵器が含まれる。

雷電山遺跡は、北方約2.5kmに位置し、堅穴住居跡9軒が整然と並んだ状態で確認された。しかもその多くが大型の横長の住居跡である。この遺跡は前方後円形状の台地上に立地し、その出土した遺物から5世紀後半の遺跡と考えられ、塚山古墳群の存続時期と並行する。なお以前は、この遺跡を大型の前方後円墳とする見方もあったが、この調査により集落跡であることが判明した。但し、この遺跡から 製鏡四面と勾玉、鏡、盾、斧などの石製模造品が出土していることから、この遺跡の一角に中小規模の古墳が存在した可能性は高い。

(参考文献)

宇都宮市教育委員会 1992『宇都宮市文化財年報』第8号

宇都宮市教育委員会 1994『雷電山遺跡』

板橋正幸ほか 2006『西下谷田遺跡Ⅱ』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

大川清・吉岡秀範ほか 1995『栃木県上三川町殿山遺跡』上三川町教育委員会

久保哲三ほか 1979『権現山北遺跡』宇都宮市教育委員会

久保哲三ほか 1990『下野茂原古墳群』宇都宮市教育委員会

安永真一 2001『上神主・茂原 茂原向原 北原東』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

No	遺跡名	所在地	時代と種別
1	塚山古墳群	宇都宮市西川田町	塚山古墳・塚山西古墳・塚山南古墳と円墳群。
2	雷電山遺跡	宇都宮市江曾島町	古墳時代の集落跡。
3	北若松原遺跡	宇都宮市北若松原	縄文～古墳時代の集落跡。
4	宮の内一丁目遺跡	宇都宮市宮の内一丁目	古墳～中世の集落跡。
5	城南三丁目遺跡	宇都宮市城南三丁目	円墳1基、平安～中世の集落跡。
6	若松原南遺跡	宇都宮市若松原三丁目	古墳時代の集落跡。
7	溜西遺跡	宇都宮市雀宮町	古墳時代の集落跡。
8	天狗原遺跡	宇都宮市茂原町	弥生～古墳の集落跡。
9	牛塚東遺跡	宇都宮市雀宮町	方墳2基、平安時代の竪穴住居跡1軒。
10	双子塚古墳	宇都宮市東谷町	前方後円墳で前方部が削平。
11	笹塚古墳	宇都宮市東谷町	全長約100mの前方後円墳。
12	多功神塚古墳群	宇都宮市茂原町	円墳2基。
13	宇都宮機器南遺跡	宇都宮市下横田町	古墳時代の集落跡。
14	牛塚古墳	宇都宮市新宮町	全長56.7mの前方後円墳。
15	綾女塚古墳	宇都宮市雀宮町	前方後円墳で現在は消滅。
16	十里木古墳	宇都宮市雀宮町	石室のみが現存。
17	溜西南遺跡	宇都宮市雀宮町	古墳時代の集落跡。
18	一向寺別院遺跡	宇都宮市雀宮町	古墳時代の集落跡。
19	西原北遺跡	宇都宮市雀宮町	縄文～古墳時代の集落跡。
20	二軒屋遺跡	宇都宮市雀宮町	縄文～古墳時代の集落跡。
21	若松原遺跡	宇都宮市雀宮町	縄文～古墳時代の集落跡。
22	関遺跡	宇都宮市江曾島町	古墳～奈良時代の集落跡。
23	江曾島北遺跡	宇都宮市江曾島町	古墳～平安時代の集落跡。
24	並松遺跡	宇都宮市江曾島町	古墳～平安時代の集落跡。
25	大山祇神社古墳	宇都宮市上横田町	直径約30mの円墳。
26	台内手遺跡	宇都宮市江曾島町	円墳2基。

第1表 古墳時代周辺遺跡一覧表

II. 調査概要

2次にわたる調査の結果、墳丘3基と埴輪棺1基が確認できた。以下、それぞれの遺構について記す。

1. 5号墳

位置

本古墳は今回調査された古墳の中では一番西側に位置する。また、塚山古墳のくびれ部の北側にあたる。

墳丘と周溝

既存の道路を約60cm掘り下げた時点で見つかった古墳で、すでに墳丘部分は削平され、今回確認できた残りの3分の1は、北側の県総合運動公園の駐車場造成により消滅している。

周溝は円形にめぐり、周溝の内側立ち上がり部分で測った墳丘径は約9mで、そのほぼ中心で埋葬施設が確認できた。

周溝幅は、0.9～1.5m、確認面からの深さは0.35～0.6mである。周溝底面は、地山ローム層である。覆土は、自然堆積で、大きく4層に分けられる。周溝東側の第1層～第2層にかけて埴輪片が多く出土した(第5図)。

埋葬施設

埋葬施設は墳丘の中心のやや北よりに位置し、地山に掘り込まれている。その掘り方の規模は、長さ280cm×幅90～115cmで、確認面からの深さが約50cmである。長軸の両端底部に塊状の粘土が確認できたほか、棺の周囲を粘土混じり層がめぐる。棺の規模は、長さ250cm×幅32～42cmと推定される。南西側が狭く、北東側が広いことから北東側が頭位と考えられる。また、それを裏付けるように第7図に示すように、北東側から勾玉やガラス小玉が纏まって出土している。

棺の構造は、両小口とも鍵の手状の挟り込みが見られることから、組み合わせ式の木棺が想定される。また、周溝内から土坑墓と思われる浅い掘り込みを1ヶ所確認した。掘り込みは主体部と平行し南東部に位置し、その規模は、長軸2.2m、短軸0.9m、深さ0.6mである。

出土遺物

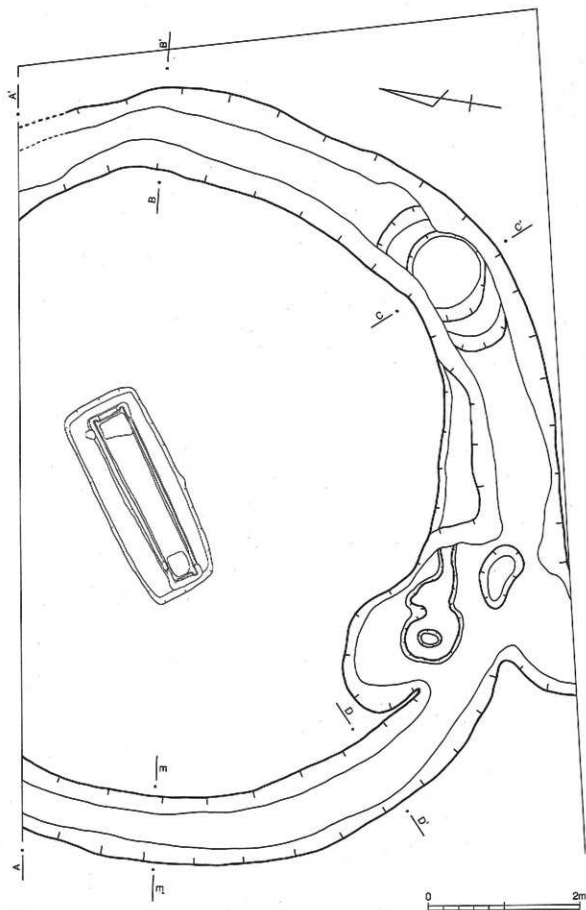
埋葬施設内より勾玉1点、管玉3点、ガラス小玉289点(第8、9図)が纏まって出土した。勾玉は丁字頭のもので、長さ5.5cm、幅1.4～2.1である。管玉は碧玉製で、長さ2.5cm、幅1.6cmのもの(290)、4.5cm、幅1.0cmのもの(291)、4.8cm、幅1.0cmのもの(292)である。290は片側穿孔で、291と292は両側穿孔である。ガラス小玉は青色、緑色?があり、径が0.4cm～2.2cmである。

周溝内からは、円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土している。

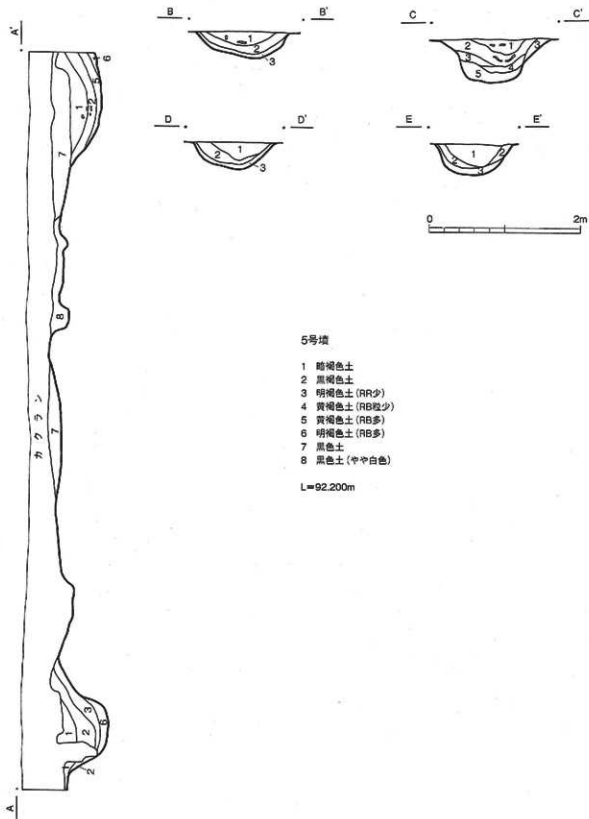
第10図1は円筒埴輪で、口径28.8cm、残存高が15.0cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を摘み上げる。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は半円形もしくはは方形。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第10図2は円筒埴輪で、口径27.1cm、残存高が22.6cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を摘み上げる。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

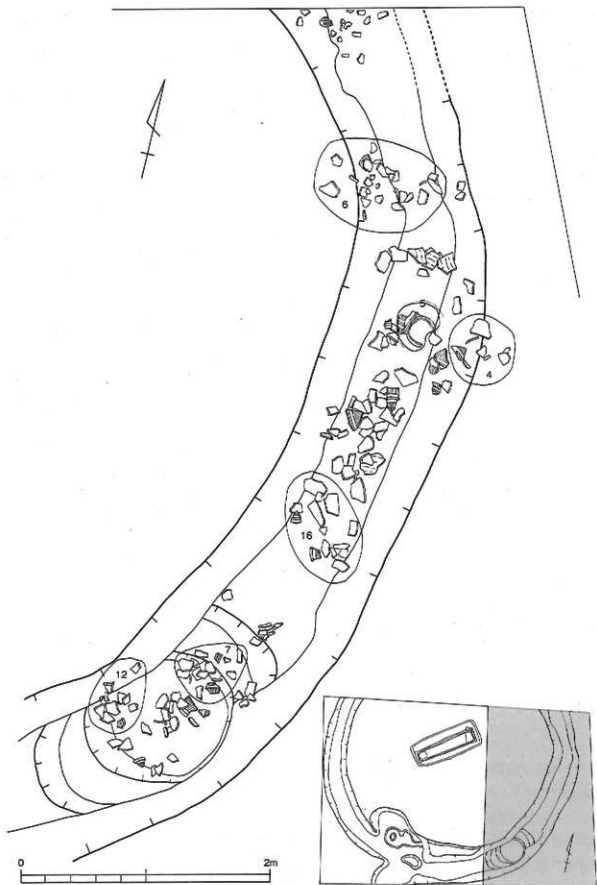
第10図3は円筒埴輪で、口径28.2cm、残存高が18.9cmである。口唇部の形状は緩やかに外反し、端部を若



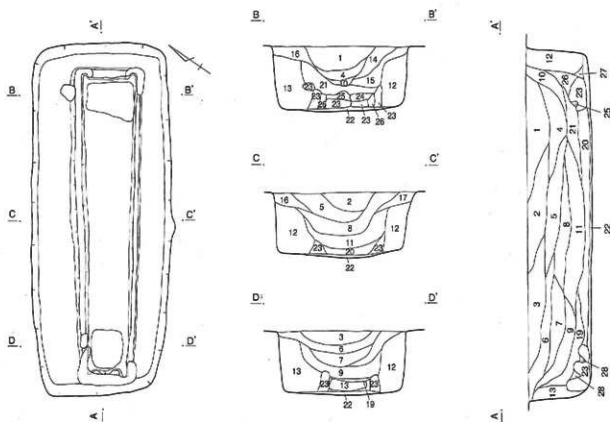
第3图 5号墳平面图



第4図 5号墳断面図



第5图 5号墳遺物出土状況



5号墳主体部

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 黒色土 (RR少、白色砂粒多) | 19 暗褐色土 (RR・小RB・粘土粒少) |
| 2 黒褐色土 (RR多、やや硬い) | 20 褐色土 (RRを含み軟らかい) |
| 3 黒褐色土 (RR少、白色砂粒多、やや硬い) | 21 暗褐色土 (RR、粘土粒少) |
| 4 黒色土 (RR多、やや軟らかい) | 22 褐色土 (RR、白色粘土粒混じる) |
| 5 暗褐色土 (RR・小RB多) | 23 白色粘土塊 |
| 6 暗褐色土 (RR・小RB少) | 24 白色土 (RR、黒色土少し混じる) |
| 7 暗褐色土 (RR多・小RB少) | 25 黒褐色土 (RR、粘土粒少) |
| 8 褐色土 (RR・小RB多) | 26 暗褐色土 (RR、粘土粒微) |
| 9 暗褐色土 (RR、粘土粒少) | 27 黒色土 |
| 10 暗褐色土 (RR・小RB、粘土粒) | 28 暗褐色土 (RR・小RB少、粘土粒多く含む) |
| 11 黄褐色土 (RR・小RB多、粘土粒少) | |
| 12 暗褐色土 (RR・小RB少、硬い) | |
| 13 黄褐色土 (RR・小RB多、硬い) | |
| 14 褐色土 (RR・小RB多) | |
| 15 黄褐色土 (RR・小RB多) | |
| 16 褐色土 (RR多) | |
| 17 褐色土 (RR多) | |
| 18 暗褐色土 (RR少) | |

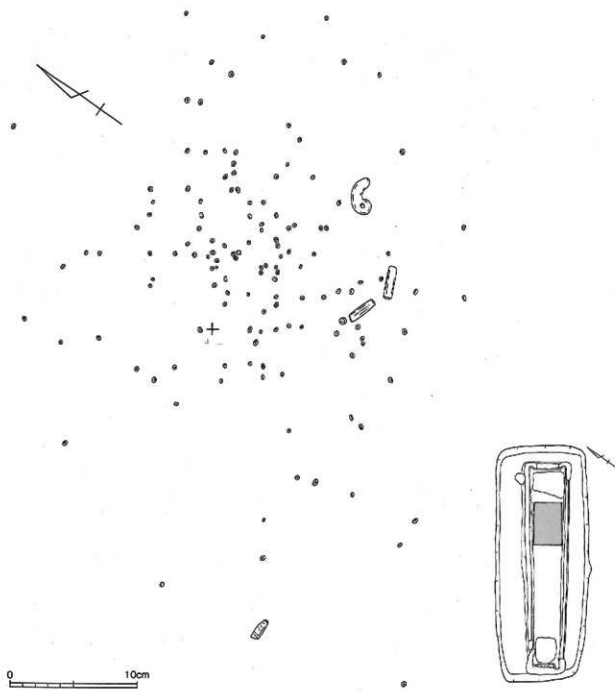
L=92.200m

第6図 5号墳主体部平・断面図

干積み上げる。突帯の断面形状は台形。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部は輪積み痕が残る。色調は赤褐色である。

第10図4は円筒埴輪で、口径27.7cm、残存高が20.5cmである。口唇部の形状は緩やかに外反し、端部を若干積み上げる。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第10図5は円筒埴輪で、口径27.0cm、残存高が16.7cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を積み上げる。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は半円形もしくは方形。調整



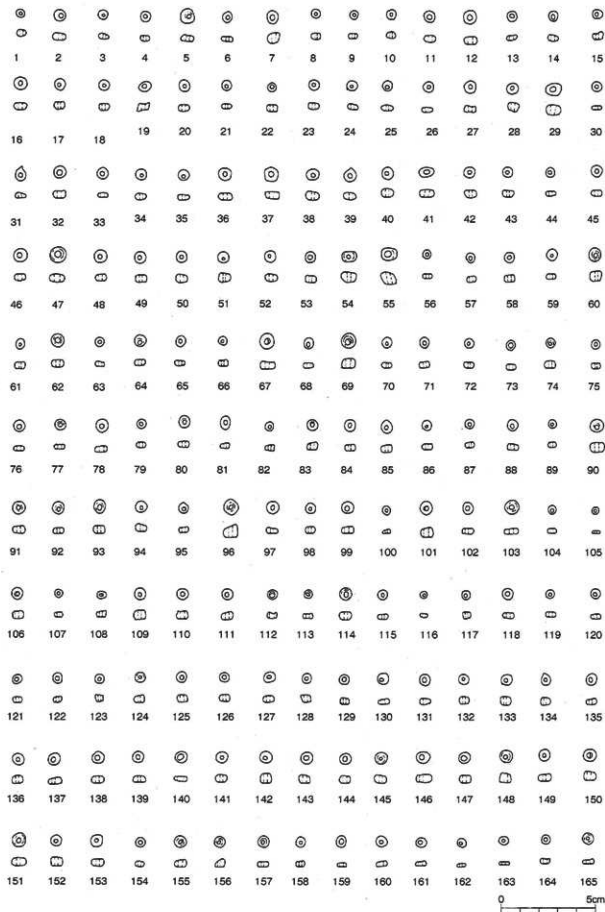
第7図 5号墳主体部遺物出土状況図

は外面タテハケ、内面ナデ、色調は淡褐色である。

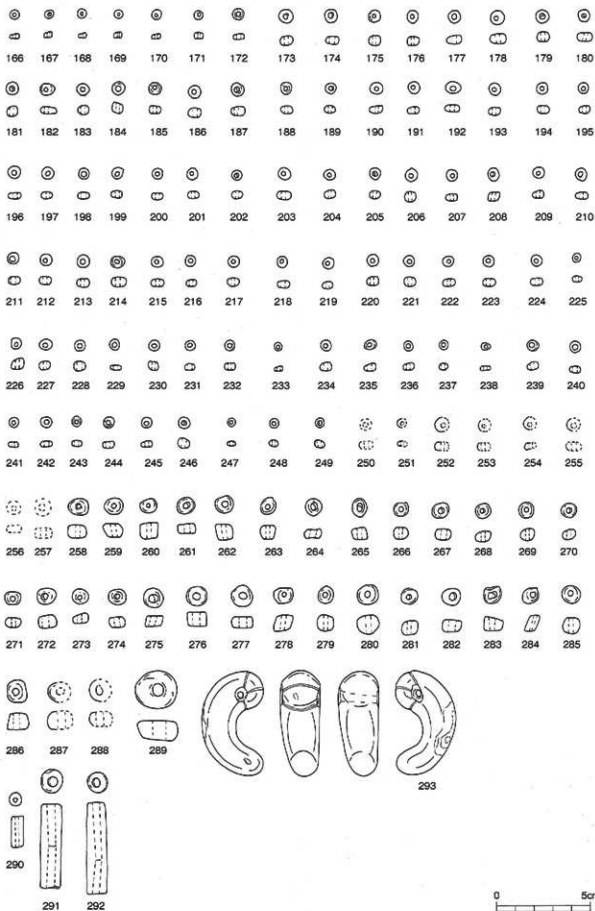
第10図6は円筒埴輪で、口径28.0cm、残存高が5.5cmである。口唇部の形状は緩やかに外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第10図7は円筒埴輪の口縁部片である。口径24.8cm、残存高が5.7cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を揃み上げる。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

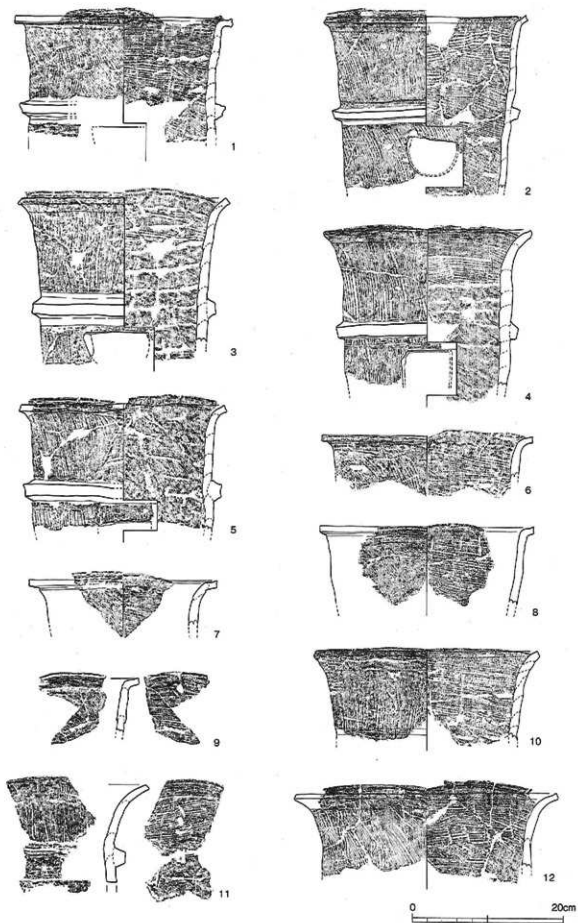
第10図8は円筒埴輪の口縁部片である。口径28.4cm、残存高が10.4cmである。口唇部の形状は外側に短く



第8图 5号墳主体部出土遺物実測図(1)



第9图 5号墳主体部出土遺物実測図(2)



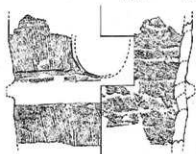
第10圖 5号墳出土円筒縮輪実測図(1)



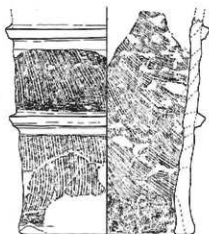
13



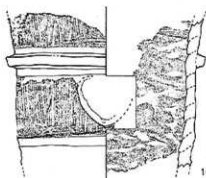
14



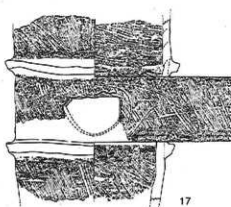
15



16



17



18



19



20



21



22

0 20cm

第11图 5号填出土円筒罐輪奘測図(2)

屈曲し、端部を揃み上げる。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第10図9は円筒埴輪の口縁部片である。残存高が7.0cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を揃み上げる。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は赤褐色である。

第10図10は円筒埴輪の口縁部片である。残存高が12.8cmである。口唇部の形状は緩やかに外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第10図11は円筒埴輪の口縁部片である。口径30.0cm、残存高が11.6cmである。口縁部の形状は緩やかに外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第10図12は円筒埴輪の口縁部片である。口径34.9cm、残存高が10.0cmである。口唇部の形状は緩やかに外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第11図13は朝顔形埴輪で、残存高が2.2cmである。口唇部の形状は緩やかに外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第11図14は円筒埴輪で、底径21.6cmで、残存高が39.0cmである。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に方形のものを穿孔する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナナメハケ後ナデ、色調は乳白色である。

第11図15は埴輪の胴部片で、残存高が16.6cmである。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は褐色である。

第11図16は埴輪の胴部片で、残存高が20.0cmである。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は乳白色である。

第11図17は円筒埴輪で、残存高が23.7cmである。突帯断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は半円形で、透孔の脇に一重の銀杏葉形線刻ある。調整は外面ナナメハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部ナナメハケ、色調は淡褐色である。

第11図18は円筒埴輪で、底径21.5cmで、残存高が13.0cmである。調整は外面タテハケ、内面ナナメハケ、色調は赤褐色である。

第11図19は円筒埴輪で底径28.6cmで、残存高が28.6cmである。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。調整は外面タテハケ、内面ナナメハケ、色調は外面淡褐色、内面褐色である。

第11図20は円筒埴輪で、底径22.4cmで、残存高が13.3cmである。調整は外面タテハケ、内面ナナメハケ、色調は乳白色である。

2. 7号墳

位置

本古墳は塚山古墳のくびれ部の北側で、5号墳と8号墳の間に位置する。

墳丘と周溝

既存の道路を約60cm掘り下げた時点で見つかった古墳で、周溝南側の一部が確認され、残りは北側の県総合運動公園の駐車場造成により消滅している。

周溝は円形にめぐると推定され、推定の墳丘径は約10mである。

周溝幅は、1.7～2.4m、確認面からの深さは0.65～0.94mである。周溝断面は逆台形で、周溝底面は地山ローム層である。覆土は、自然堆積で、大きく4層に分けられる。

周溝内の2箇所で1段深い掘り込みが見られる。また、南東部墳丘側底面にL字形の掘り込みが確認され、土坑墓と考えられる。その規模は、長軸1.6～2m、幅1m、掘り込み部の長さ1.5m、奥行き0.4mである。

埋葬施設

不明

出土遺物

第12図に示すように周溝埋土上層より朝顔形埴輪片、円筒埴輪片、形象埴輪片、土師器片が多数、中層より土師器高坏1点、小甕1点、壺1点、坏3点が出土した。

第14図1は土師器壺で、口径11.0cm、器高18.0cm、底径5.0cmである。胴部は球形で、口縁部は屈曲の弱い有段口縁である。胴部の内外面とも入念に磨かれている。色調は褐色で、焼成良好、胎土に砂粒を含む。

第14図2は土師器小甕で、口径13.8cm、器高11.4cm、底径6.8cmである。胴部は球形で、口縁部は弱く外反する。胴部内面ヘラナデ、胴部上半外面はナデ、下半ヘラミガキ。色調は褐色で、焼成良好、胎土に石英、火山灰を含む。

第14図3は土師器坏で、口径12.2cm、器高6.4cmである。丸底で、口縁部が内傾する。入念な内外面とも入念なヘラミガキ。色調は暗褐色で、焼成良好、胎土に砂粒を含む。

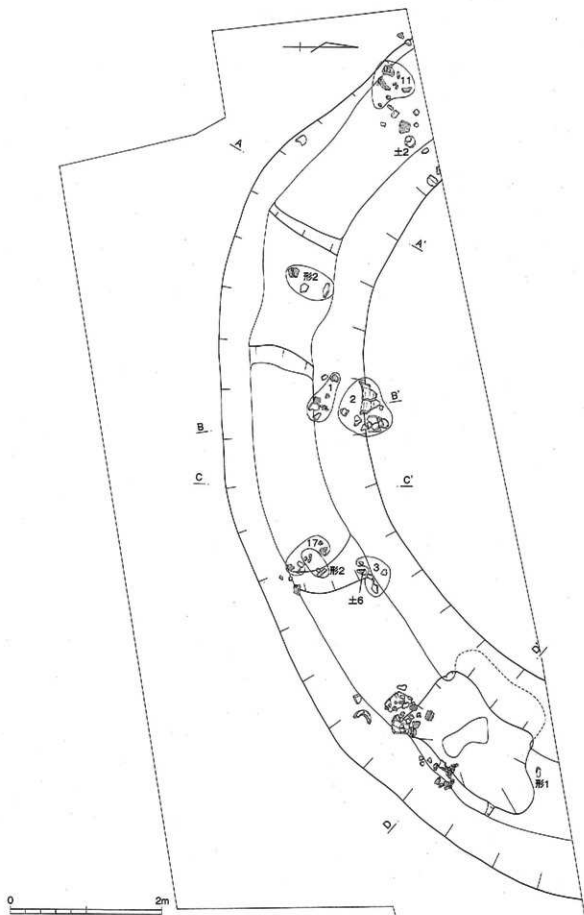
第14図4は土師器坏で、口径13.2cm、器高6.0cmである。丸底で、口縁部がやや外傾する。口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。色調は暗褐色で、焼成良好、胎土に砂粒を含む。

第14図5は土師器坏で、口径15.6cmである。丸底で、口縁部が内斜する。口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面放射状のヘラミガキ。色調は淡褐色で、焼成良好、胎土に石英、赤色スコリア粒、黒色粒、白色粒を含む。

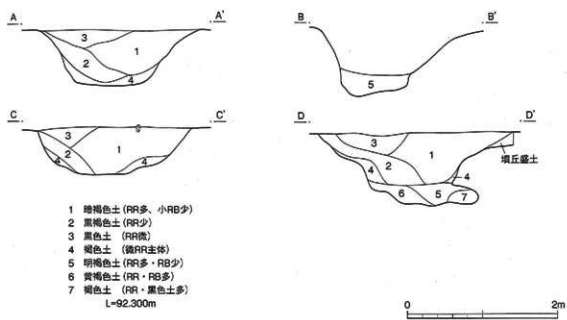
第14図6は土師器高坏で、底径12.0cmである。短めの脚部で、裾部が大きく開く。脚部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ。色調は褐色で、焼成良好、胎土に砂粒を含む。

第15図1は円筒埴輪で、口径27.8cm、器高が43.2cm、底径15.4cmである。ややラッパ状に開く形状で、直口縁で、端部は上向きである。2条突帯で、断面形状は台形である。透孔は円形で2段目に穿つ。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。

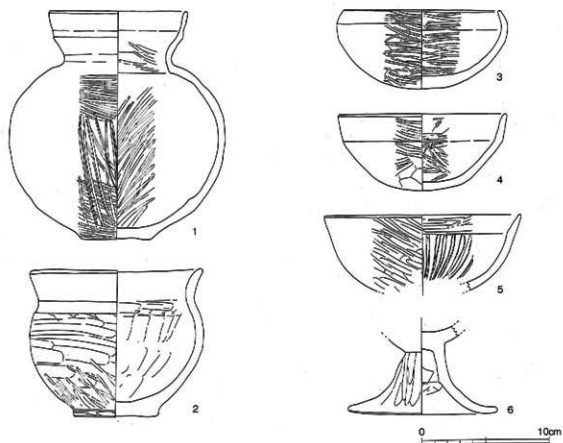
第15図2は円筒埴輪で、口径29.2cm、器高が42.0cm、底径19.0cmである。ややラッパ状に開く形状で、直口縁で、端面が外側を向いている。2条突帯で、断面形状は台形である。透孔は楕円形で2段目に穿つ。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。



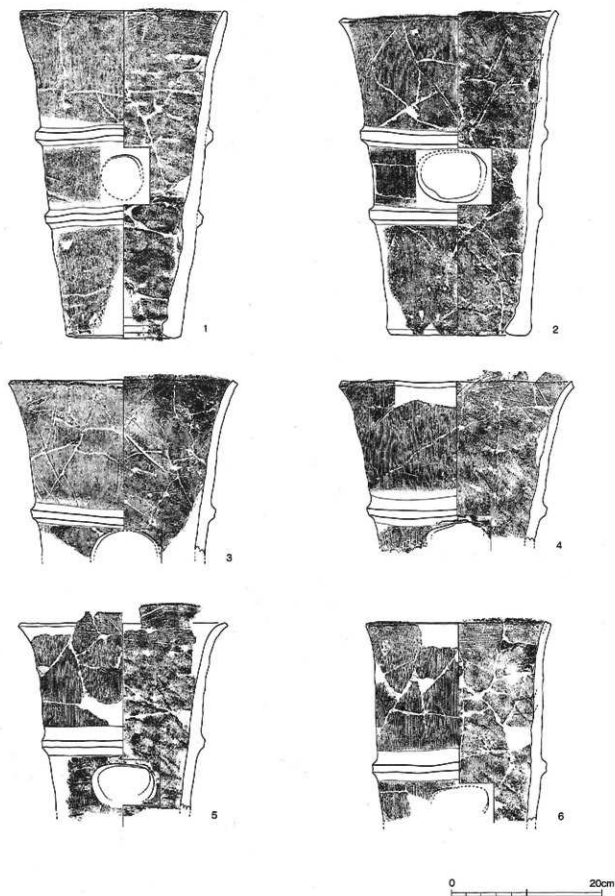
第12图 7号填平面图



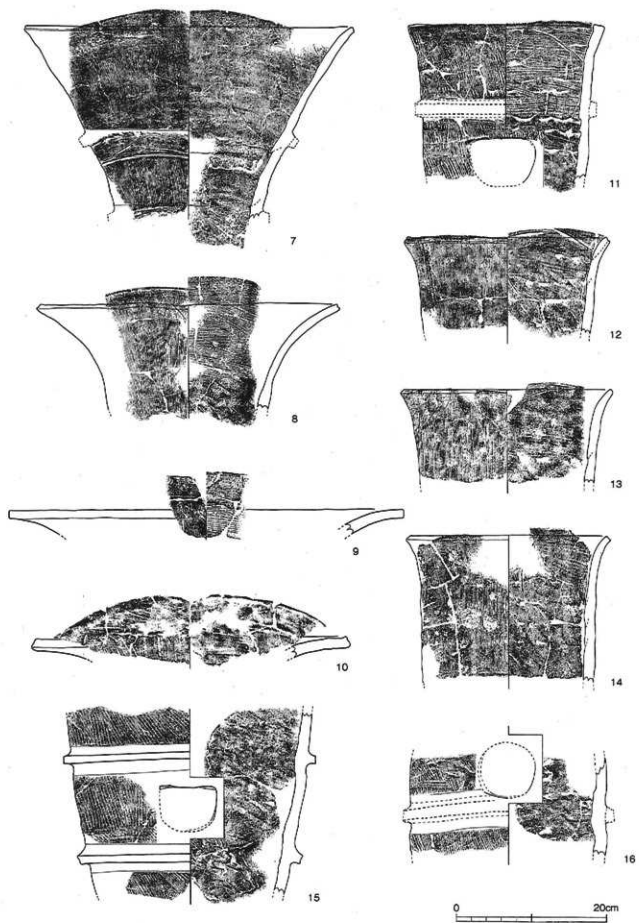
第13图 7号填断面图



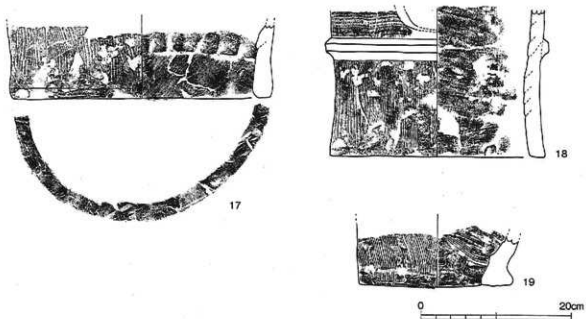
第14图 7号出土遗物实测图



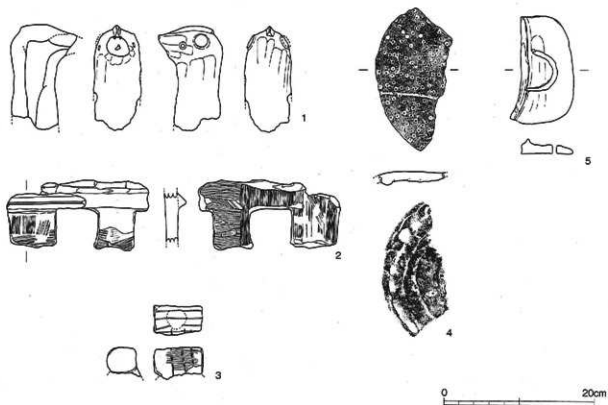
第15图 7号填出土丹高埴輪突刺图(1)



第16図 7号墳出土土円筒埴輪実測図(2)



第17图 7号填出土円筒罐輪実測图 (3)



第18图 7号填出土形象埴輪実測图

第15図3は円筒埴輪で、口径30.4cm、残存高が23.0cmである。ややラッパ状に開く形状で、直口縁で、端面が外側を向いている。突帯断面形状は台形である。透孔は円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は褐色である。

第15図4は円筒埴輪で、口径31.2cm、残存高が23.0cmである。ややラッパ状に開く形状で、口縁部は弱く外反する。突帯断面形状は台形である。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。

第15図5は円筒埴輪で、口径28.2cm、残存高が26.0cmである。ややラッパ状に開く形状で、口縁部は弱く外反する。突帯断面形状は台形である。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。

第15図6は円筒埴輪で、口径24.6cm、残存高が26.0cmである。直口縁で、端面が外側を向いている。突帯断面形状は台形である。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。

第16図7は朝顔形埴輪で、口径43.6cm、残存高25.0cmである。口縁部は外傾する。突帯断面形状は台形。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は淡褐色である。

第16図8は朝顔形埴輪で、口径40.4cm、残存高15.0cmである。口縁部は外反する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第16図9は朝顔形埴輪で、口径53cm、残存高4.0cmである。口縁部は大きく開く。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第16図10は朝顔形埴輪で、口径42.4cm、残存高3.0cmである。口縁部は大きく開く。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第16図11は円筒埴輪で、残存高が25.0cmである。口縁部はゆるく外傾する。突帯は剥離している。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は赤褐色である。

第16図12は円筒埴輪で、口径26.2cm、残存高が12.5cmである。直口縁で、端部は上向きである。透孔は不明。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は淡褐色である。

第16図13は円筒埴輪で、口径27.2cm、残存高が12.0cmである。口縁ではゆるく外反する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は褐色である。

第16図14は円筒埴輪で、口径28.4cm、残存高が12.0cmである。口縁ではゆるく外反する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は褐色である。

第16図15は円筒埴輪で、残存高が24.8cmである。突帯断面形状は台形。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、それ以下はナデ。色調は褐色である。

第16図16は円筒埴輪で、残存高が12.0cmである。透孔は円形。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は淡褐色である。

第17図17は埴輪で、底径35cmで、残存高が9.0cmである。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は淡褐色である。

第17図18は円筒埴輪で、底径29.0cm、残存高が19.0cmである。突帯断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。孔は半円形。調整は外面タテハケ後B種ヨコハケ、内面ナデ、端部ヨコハケ。色調は淡褐色である。

第17図19は埴輪で、底径20.6cmで、残存高が6.0cmである。調整は外面タテハケ、内面ナメハケ、色調

は灰褐色である。

第18図1は鶏形埴輪の頭部片で、残存高が14.0cmである。^{くもじ}嘴は欠損しているが、そのつけ根には2ツの鼻孔の刺突がわずかに残っている。目は竹管で刺突している。鶏冠は刻みをもたず頭頂に貼りつける。耳羽を表す粘土円板を目の後方に貼りつけている。粘土を輪積みで頭部まで中空につくり、口先をしほりこんで成形する。色調は淡褐色である。

第18図2は家形埴輪片で、残存高が9.0cm、器厚1.4cmである。方形の透孔が2箇所確認でき、その上に高さ1.0cmの突帯がめぐる。内外面とも細かいハケ調整が見られる。色調は淡黄色である。

第18図3は形象埴輪片で、長さ6.0cm、高さ3.5cm、幅4.2cmである。一部に剥がれた痕跡がある。ハケ調整後3面に3本の沈線を掻く。大きさやその状態から家形埴輪の窯木の可能性が考えられる。色調は淡褐色である。

第18図4は形象埴輪片である。表面に円形の刺突文が放射状を意識して施文されている。内面には輪積痕が良く残る。色調は淡褐色である。人物埴輪の一部の可能性がある。

第18図5は形象埴輪片で、長さ14.2cm、器厚1.2cm、幅6.0～8.0cmある。半円形状で、「C」字状の透孔をもつ。一部に剥がれた痕跡がある。色調は淡褐色である。

3. 8号墳

位置

本古墳は塚山古墳の後円部の北側で、7号墳の西側に位置する。

墳丘と周溝

既存の道路を約60cm掘り下げた時点で見つかった古墳で、周溝南側の一部が確認され、残りは北側の県総合運動公園の駐車場造成により消滅している。

周溝は円形にめぐると推定され、推定の墳丘径は約14mである。

周溝幅は、2.4～2.9m、確認面からの深さは0.45～0.6mである。周溝断面は浅いU字形で、周溝底面は地山ローム層である。覆土は、自然堆積で、大きく5層に分けられる。

埋葬施設

不明

出土遺物

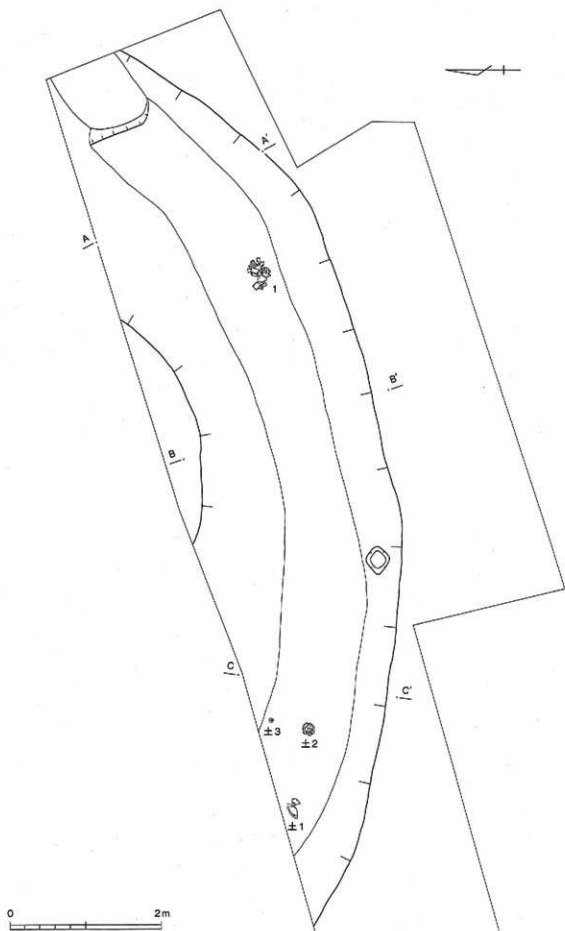
第19図に示すように周溝埋土上層より円筒埴輪片、中層より土師器杯1点、土師器埴1点、南西部周溝底より紡錘車1点が出土した。

第21図1は土師器壺で、口径9.4cm、残存高15.5cmである。口縁部は短く内湾し、胴部中位に最大径を有する。口縁部内外面縦位ヘラミガキ、胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラナデ、色調は赤褐色である。

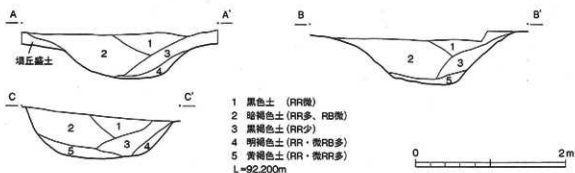
第21図2は土師器杯で、口径13.9cm、器高6.1cmの丸底である。内外面入念なヘラミガキ。色調は赤褐色である。

第21図3は紡錘車で、径4.8cm、高さ1.4cmである。

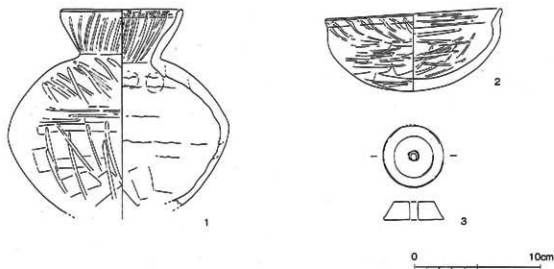
第22図1は円筒埴輪で、口径28.8cm、器高50.0cm、底径20.0cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲する。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に方形のものを穿孔する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、以下ナデ。



第19図 8号墳平面図



第20図 8号墳断面図



第21図 8号墳出土遺物実測図

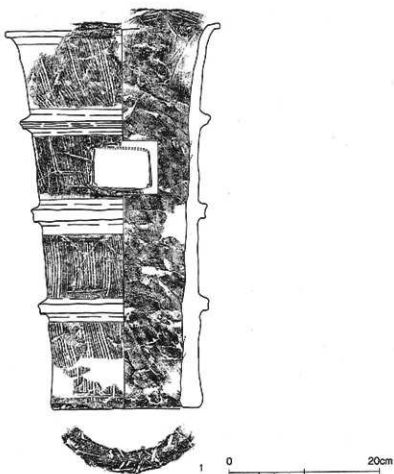
4. 5号埴輪棺

本埴輪棺は塚山古墳の前部北西コーナーの北側約7mで、5号墳の西側約50mのところらに位置する。この古墳群内では、このほかに埴輪棺が10基確認されている。

埴輪棺埋設のための土坑の掘り方は、長さ1.96m、幅0.55mで、埴輪棺の全長は1.68m、最大幅0.5mである。棺身には円筒埴輪と朝顔形埴輪を使用している。

第24図1は円筒埴輪で、口径31.3cm、器高44.7cm、底径16.5cmである。直口縁で、端部は上向きである。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に方形のものを穿孔する。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は乳白色である。

第24図2は円筒埴輪で、口径29.8cm、残存高39.4cmで、底部を欠損する。直口縁で、端部は上向きである。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に方形のものを穿孔する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は乳白色である。



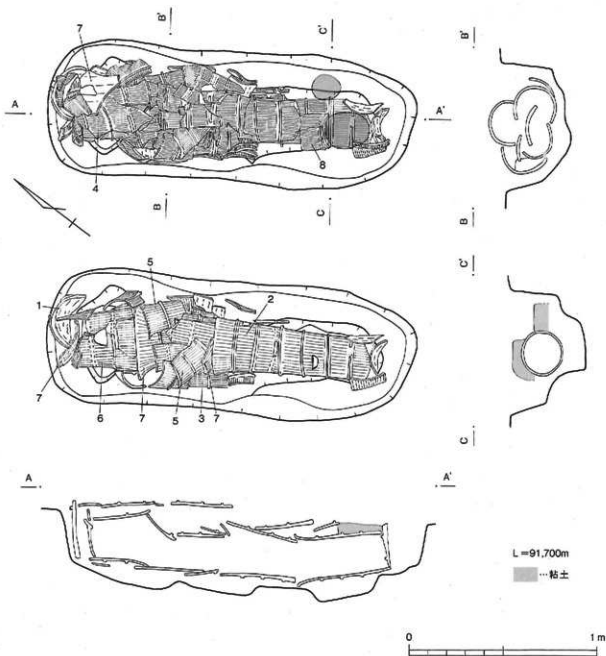
第22図 8号墳出土円筒埴輪実測図

第24図3は円筒埴輪で、口径27.2cm、残存高45.2cmで、底部を欠損する。口唇部の形状は緩やかに外反する。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に方形のものを穿孔する。調整は外面クテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は乳白色である。

第24図4は円筒埴輪で、口径33.2cm、残存高41.5cmで、底部を欠損する。口唇部の形状は直口縁で、端部が外側を向いている。3条突帯で、断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に半円形のものを穿孔する。調整は外面クテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は淡褐色である。

第25図5は円筒埴輪で、口径30.0cm、残存高47.7cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲し、端部を積み上げる。突帯断面形状は台形。透孔は3段目に半円形のものを穿孔する。透孔の脇に「銀杏葉」線刻あり。調整は外面クテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてハケ後ナデ、色調は褐色である。

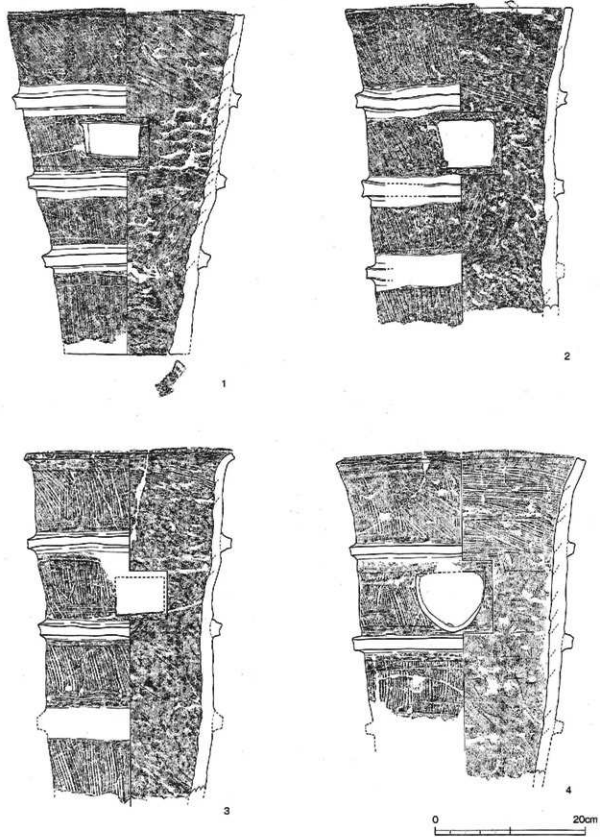
第25図6は円筒埴輪で、口径31.5cm、残存高34cmである。口唇部の形状は直口縁で、端部が外側を向いている。突帯断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は3段目に半円形のものを穿孔する。透孔の脇に「×」線刻あり。調整は外面クテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は褐色である。



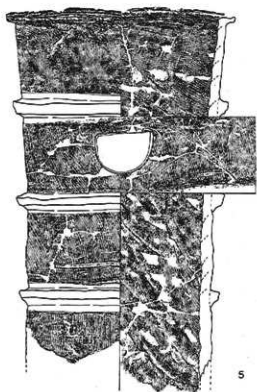
第23図 5号埴輪棺平・断面図

第25図7は朝顔形埴輪で、口径51.0cm、残存高が18.5cmである。口唇部の形状は緩やかに外反し、端部を摘み上げる。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は乳白色である。

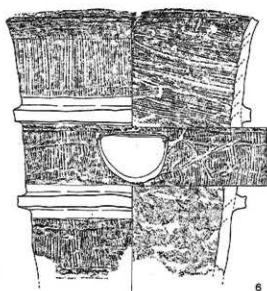
第25図8は朝顔形埴輪で、残存高が44.3cmである。突帯の断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。透孔は半円形。調整は外面タテハケ、内面ナデ、色調は褐色である。



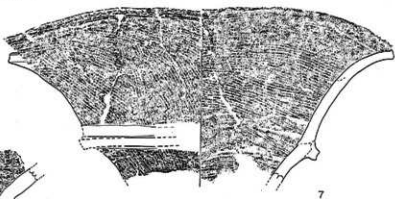
第24图 5号茧轴袍奥测图(1)



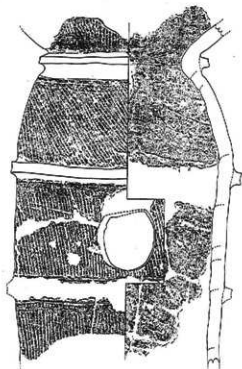
5



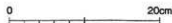
6



7



8



第25图 5号榫轴轮栳类测图(2)

5. 土坑

今回の調査では、5号墳の東側で土坑を2基確認した。

S K 0 1 は長軸1.35m、短軸0.7m、不整楕円形である。埋土中からは埴輪片が出土している。

第28図1は朝顔形埴輪片である。口縁部は大きく外傾し、口縁端部を積み上げる。突帯断面形状は台形で稜を丁寧に作り出し側面が窪む。調整は外面タテ及びヨコハケ、内面ナデ、色調は褐色である。

第28図2は朝顔形埴輪片である。口縁部は大きく外傾する。調整は外面タテハケ、内面ヨコハケ、色調は褐色である。

第28図3は円筒埴輪で、口径29.2cm、残存高6.0cmである。口唇部の形状は外側に短く屈曲する。屈曲部に一条の沈線がめぐる。調整は外面ナナメハケ、口縁部内面ヨコハケ、色調は淡褐色である。

第28図4は円筒埴輪で、口径27.7cm、残存高45.7cmである。口唇部の形状は直口縁で、端面が上向きである。突帯断面形状は台形。透孔は3段目に半円形のを穿孔する。透孔の脇に「×」線刻あり。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は淡褐色である。

第28図5は埴輪の底部片で、底径22.4cm、残存高7.2cmである。調整は外面タテハケ、内面タテハケ、色調は淡褐色である。

第28図6は朝顔形埴輪で、底径19.2cm、残存高41.8cmである。突帯断面形状は台形。透孔は3段目に半円形のを穿孔する。調整は外面タテハケ後3段目にB種ヨコハケ、上段内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、色調は乳白色である。

第29図7は円筒埴輪で、底径21.7cm、残存高42.5cmである。突帯断面形状は台形。透孔は3段目に半円形のを穿孔する。透孔の脇に「銀杏葉」線刻あり。調整は外面タテハケ、内面ナナメハケ。色調は乳白色である。

S K 0 2 は長軸1.86m、短軸0.96mの楕円形である。土坑の周辺で埴輪片が出土している。

S K 0 3 は長軸2.2m、短軸0.76m、確認面からの深さ0.2mの楕円形である。出土遺物は確認できなかった。

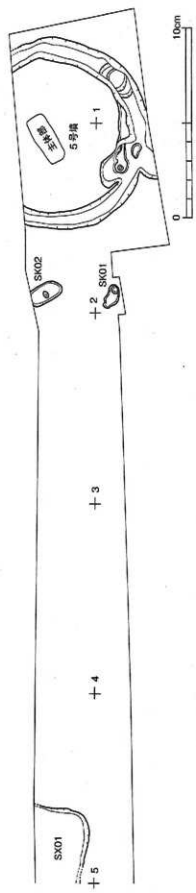
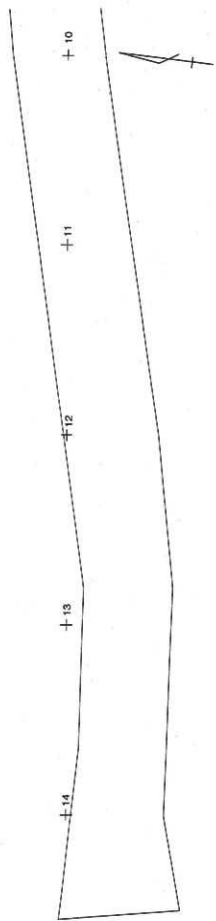
6. その他の遺構と遺物

SD 0 1

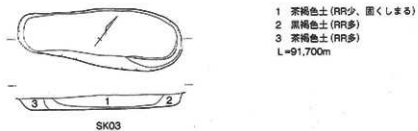
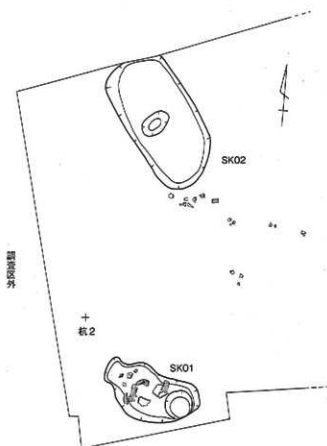
坑の6ラインで確認された。長さ18m、幅1.5m、深さ0.55mの溝で、S X 0 1と切り合っている。出土遺物は確認できなかった。

S X 0 1

坑の5～6ラインで確認された。長さ37m、深さ0.65mの方形に掘り込まれた遺構で、性格は不明である。SD 0 1と切り合っている。出土遺物は確認できなかった。



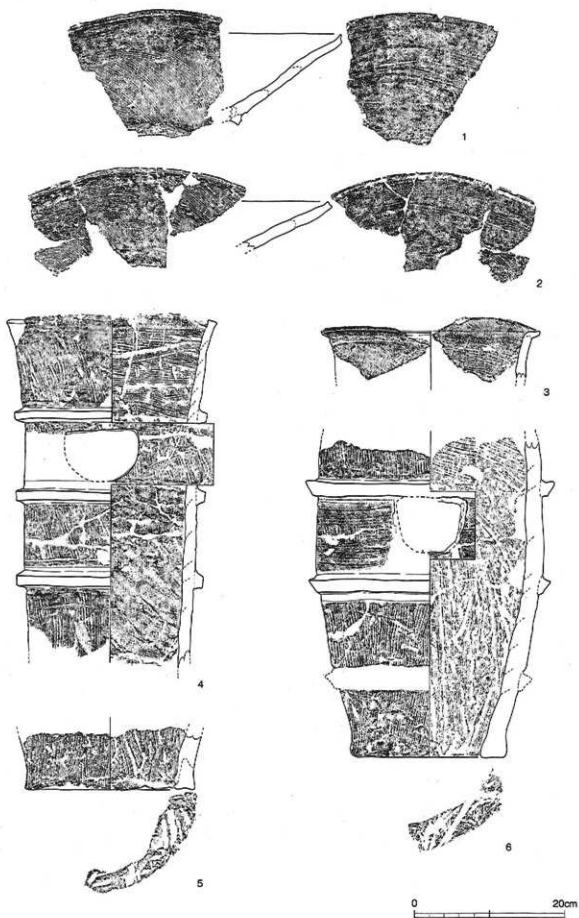
第26図 トレンチ調査全体図



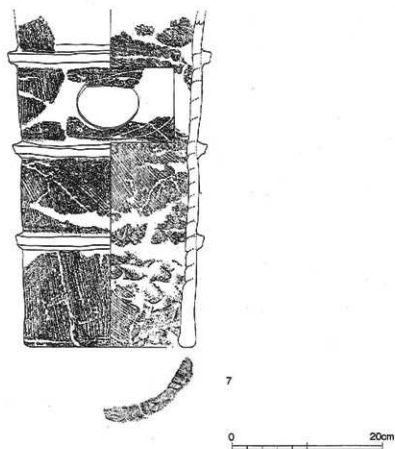
- 1 茶褐色土 (RR少、固くしまる)
 - 2 黒褐色土 (RR多)
 - 3 茶褐色土 (RR多)
- L=91.700m



第27図 土坑平・断面図



第28圖 土坑出土商罐輪奘測圖(1)

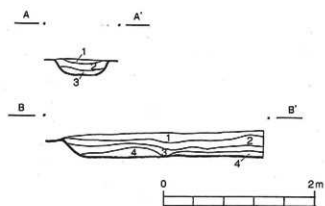
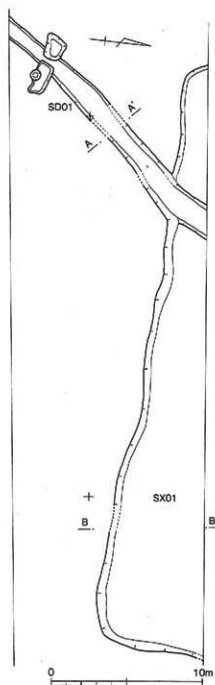


第29図 土坑出土円筒壺輪実測図 (2)

表採

調査区内で円筒壺輪が1点出土している。

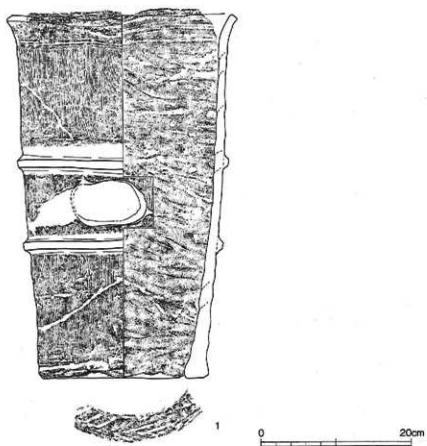
第31図1は円筒壺輪で、口径24.8cm、器高38.4cm、底径18.0cmである。直口縁で、端面が外側を向いている。2条突帯で、断面形状は台形。透孔は2段目に楕円形のを穿孔する。調整は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部から底部にかけてナデ、底部及び口縁部に一条の沈線がめぐる。色調は淡褐色である。



SD01、SX01

- 1 黑色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 黑褐色土
 - 4 明褐色土 (RR多)
- L=92,000m

第30图 SD01、SX01平·断面图



第31圖 遺構外出土円筒輪軸実測図

Ⅲ. お わ り に

今回の調査で、円墳が3基と埴輪箱1基、土坑が3基確認できた。

5号墳は直径9mと隣接する4号墳(直径8m)と同様に古墳群内において最小規模の古墳である。この古墳は、周溝内の埴輪の出土量や状態からすると小規模であるが、墳丘上に埴輪を樹立していた可能性がある。そして、中央の埋葬施設は粘土を使用した組合式木棺が想定され、副葬品に勾玉・管玉・ガラス小玉など多量の玉類が出土する。玉類の出土状況や棺の幅が北東側の方がより広いことから考えると、頭位は北東側と考えられる。勾玉は頭部に三条の刻線をつけた丁字頭のもので、形態的に古い様相を示す。また、出土した埴輪は、全体像のわかるものはないが、三条突帯で、透孔が方形と半円形のもので、器形が筒形を呈することから、塚山古墳に併行する時期と考えられる。

7号墳・8号墳は、一部分の調査であることから不明な部分が多いが、10~14mの5号墳よりやや大きい古墳と想定される。埋葬施設は不明であるが、周溝内から出土した遺物から、8号墳は5号墳とほぼ併行する時期で、7号墳はこれらの古墳よりも遅れて築かれたと考えられる。全体像のわかるものは2条突帯で円形の透孔をもち、最上段もやや長くなる傾向を示していることから、塚山南古墳と併行する段階と考えられるが、第16図11のように半円形の透孔をもつものや、第17図18のようにB種ヨコハケをもつ破片も見られや古い様相の埴輪も見られる。伴出した土器は、雷電山遺跡I期の土師器が出土しており(今平1994)、5世紀後葉のものと考えられ、塚山西古墳~塚山南古墳に併行する時期と想定される。

5号円筒埴輪箱は、内法の長さが1.55mと当時のほぼ平均身長に相当する。北が頭位と考えられ、円筒埴輪を口縁部が片側に開くように逆さに使用し、脚部はそれとは方向を逆にして円筒埴輪を2本連結させている。人体で一番幅を要する肩部から胴部にかけては、円筒埴輪を半截したもの及び破片を使用し体を覆っているようである。頭と足の先、つまり両小口部分は円筒埴輪を立てて塞いでおり、さらに円筒埴輪の透孔上にも埴輪片をのせ、遺体を完全な密閉している状態が窺える。使用された埴輪は、その形態から塚山古墳もしくは塚山西古墳に併行する時期のものと思われる。また、第24図2・3の埴輪はバラバラに出土し、接合作業により組み立てられたもので、使用時には、埴輪を破砕して使用したことがわかる。

この他にも、7号墳には挟り込み土坑が掘り込まれるなど、塚山古墳を中心に中小の古墳や埴輪箱、土坑墓など様々な形態の墓が見られ、5世紀の後半の階層社会の構造を知る手掛かりを示してくれている。

石部正志他 1995『峰考古』第9号 宇都宮大学考古学研究会

今平利幸 1994『雷電山遺跡』宇都宮市教育委員会

写真図版



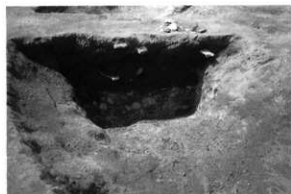
①5号墳完掘状況



②5号墳セクション A-A' (東側)



③5号墳セクション B-B'



④5号墳セクション C-C'



⑤5号墳セクション D-D'



⑥5号墳セクション E-E'



⑦5号墳遺物出土状況 (1)



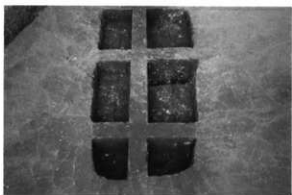
⑧5号墳遺物出土状況 (2)



①5号墳主体部完掘状況



②5号墳主体部遺物出土状況



③5号墳主体部セクション (1)



④5号墳主体部セクション (2)



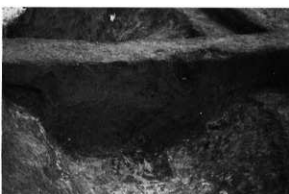
⑤7号墳完掘状況



⑥7号墳セクション A-A'



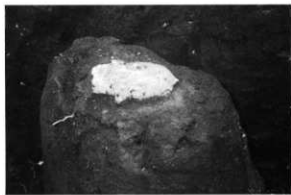
⑦7号墳セクション C-C'



⑧7号墳セクション D-D'



①7号墳竈輪出土状況



②7号墳筒形埴輪出土状況



③8号墳完掘状況



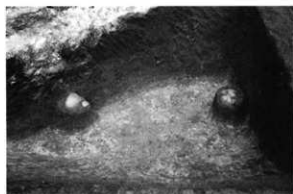
④8号墳セクション A-A'



⑤8号墳セクション B-B'



⑥8号墳セクション C-C'



⑦8号墳遺物出土状況



⑧8号墳紡錘車出土状況



①8号埴壇輪出土状況



②5号運輪棺出土状況



③5号運輪棺粘土被覆状況



④5号運輪棺完掘状況



⑤SK01運物出土状況



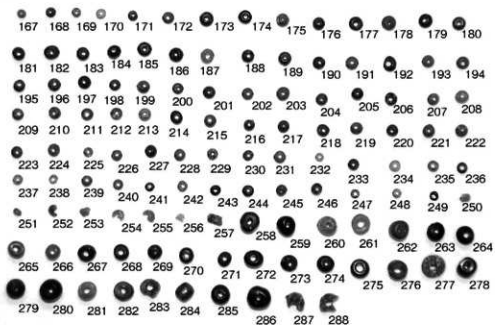
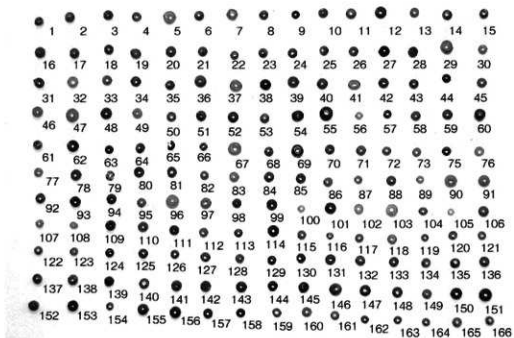
⑥SK03完掘状況



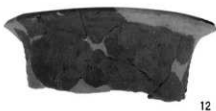
⑦SK03セクション



⑧SD01, SX01完掘状況



①5号墳主体部出土遺物



①5号墳出土円筒埴輪



②7号墳出土遺物(1)



3



4



5



6

①7号墳出土遺物 (2)



1



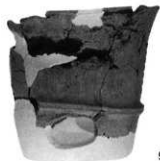
2



3



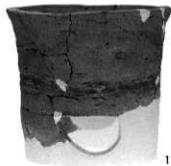
4



5

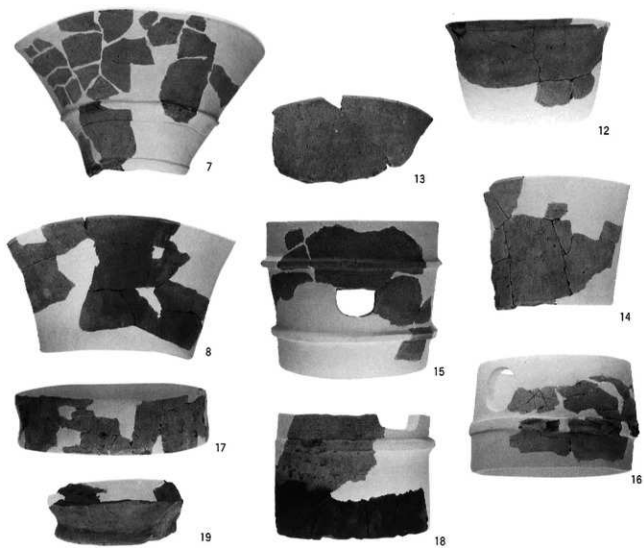


6

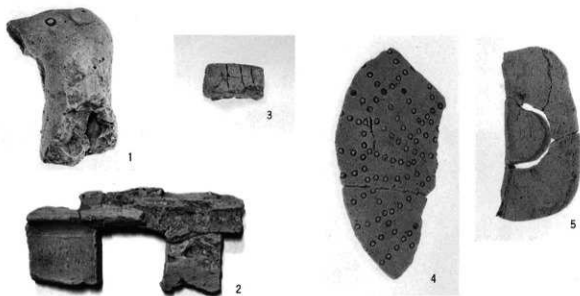


11

②7号墳出土土丹筒壺輸 (1)



①7号填出土円筒埴輪 (2)



②7号填出土形象埴輪



1



2



3

①8号填出土遺物



1

②8号填出土円筒壺輪



1



2



3



4



5



6



7



8

①5号這輪棺構成運輪



4



5



6



7

①土坑出土円筒罐輪



1

②濠溝外出土円筒罐輪

報 告 書 抄 録

ふりがな	つかやまこふんぐん
書名	塚山古墳群
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第40集
編著者名	梁木誠、大塚雅之、今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 In028-632-2764
発行年月日	西暦1996年(平成8年)3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
塚山古墳群	宇都宮市 西川田町	09201		36度 27分 46秒	139度 52分 39秒	19911028 ～ 19930331	950	道路改良 工事に伴 う発掘調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
塚山古墳群	古墳	古墳時代	古墳 埴輪棺 土坑	3基 1基 3基	土師器 円筒埴輪 朝顔形埴輪 形象埴輪 (烏・家) 勾玉 管玉 ガラス小玉	

宇都宮市埋蔵文化財報告書第40集

塚山古墳群

—道路改良工事に伴う発掘調査—

平成8年3月

発行 宇都宮市教育委員会文化課

(宇都宮市旭1-1-5)

TEL (028)632-2764

印刷 株式会社・テ・オ・印刷

(宇都宮市陽東5丁目9番21号)

TEL (028)662-2511
